

各賞の表彰

一般社団法人 日本ゴム協会

☆名誉会員推戴

日本ゴム協会定款第5条第1項・第2項および本会名誉会員推薦規定に基づき名誉会員に推戴する。

元会長 奥山 通夫氏

氏は、理事・副会長・会長など歴任され、本会の発展に貢献された。当時、財務状況が悪化していたなか、賛助会員増強や会費増収を図ることにより、財務の立て直しに尽力された。また、日本のゴム産業のグローバル化が急速に進むなか、JIS規格類の国際化の重要性を認識し、JISのISOへの参画を強力に推進された。これらの功績は多大である。

日本ゴム協会定款第5条第1項・第2項および本会名誉会員推薦規定に基づき名誉会員に推戴する。

元会長 糺谷 信三氏

氏は、関西支部長・副会長・会長など歴任され、本会の発展に貢献された。永年にわたり、ゴム科学研究に携わり、学術面、本会での貢献とともに、アカデミアおよびゴム産業界をリードする人材を多数輩出された。ゴム科学・技術の全貌を見渡し、今も極めて的確にゴムの将来展望を発信された。これらの功績は多大である。

日本ゴム協会定款第5条第1項および本会名誉会員推薦規定に基づき名誉会員に推戴する。

元会長 竹村 泰彦氏

氏は、東海支部長・副会長・会長など歴任され、本会の発展に貢献された。本会の規定・内規類の見直しを行い、これらは現在の規定類の基本となっている。財政面においても健全な財政とすべく尽力された。また、編集委員長として「ゴム試験法（第3版）」の発行に携わり、ゴム産業界に貢献された。これらの功績は多大である。

日本ゴム協会定款第5条第1項・第2項および本会名誉会員推薦規定に基づき名誉会員に推戴する。

元会長 西 敏夫氏

氏は、理事・副会長・会長など歴任され、本会の発展に貢献された。IRCにおいては、1995年の神戸でプログラム委員長、2005年の横浜では組織委員長として日本に誘致した国際ゴム技術会議を成功に導いた。また、2000年からISO/TC45/SC4/WG9 免震ゴムの議長を務め、日本主導の免震ゴムのISO化に尽力された。これらの功績は多大である。

☆第30回日本ゴム協会賞

業績の名称：超高引裂き強度を有する透明シリコーンゴムの開発

受賞者：住友ベークライト株式会社

岡田 潤氏
佐藤 基氏
妹尾 政宣氏

業績の名称：新規な高弾性脂環式ポリウレタンエラストマーの開発

受賞者：三井化学株式会社

九州大学

山崎 聡氏
長谷川大輔氏
小椎尾 謙氏

☆第 56 回ゴム技術有功賞

受賞者： 國武 典彦氏

☆第 65 回優秀論文賞

受賞論文： 老化防止剤ワックスが低温下における加硫ゴムのオゾン劣化に与える影響

受賞者： 一般財団法人化学物質評価研究機構
岩瀬 由佳氏
進藤 徹氏
近藤 寛朗氏
大武 義人氏
河原 成元氏

長岡科学技術大学大学院

受賞論文： ナノ相分離構造を形成する NBR/ポリエーテル型電解質ブレンドの作製と新規
導電ゴムローラーへの応用

受賞者： 東京農工大学大学院
東京農工大学
久保田有紀氏
富永 洋一氏

☆第 31 回オーエンスレーガー賞

研究題目： ゴムの水劣化と安定化

受賞者： 一般財団法人化学物質評価研究機構
大武 義人氏

☆第 73 回ゴム技術進歩賞

研究課題： 比重 1 未満の抗張積最大の EPDM 加硫ゴム

受賞者： 高石工業株式会社
高橋 良氏

☆第 10 回日本ゴム協会科学技術奨励賞

研究の名称： スピントラップ法によるゴム材料の劣化反応機構の解明

受賞者： 京都工芸繊維大学
坂井 亙氏

☆第 11 回 CERI 若手奨励賞

研究の名称： 反応性架橋型高分子材料の精密合成と界面機能材料への応用研究

受賞者： 大阪市立大学大学院
佐藤絵理子氏

☆第 9 回ブリヂストンソフトマテリアルフロンティア賞

フロンティア賞

研究の名称： GISAXS-CT 法による高分子薄膜材料のナノ構造の可視化

受賞者： 京都大学化学研究所
小川 紘樹氏

奨励賞

研究の名称： ゲル、エラストマーの同時的な高強度化・高延性化と小角散乱法を基軸
としたナノ構造解析による機構解明

受賞者： 岡山理科大学
大坂 昇氏

研究の名称： ゴムを基材とする可変なシワによる表面機能拡張

受賞者： 産業技術総合研究所
大園 拓哉氏